

TQ 技術の理解へ

「たとえば中国の『易経』や老荘思想には架空論も現実論も含まれますが、TQ 技術の学問的解明のためには、『易経』や老荘思想のうち現実論の部分を継承し発達させ架空論の部分を現実論に止揚することも必要です。TQ 技術の学問的解明のためには、それと同時に、デカルト・ニュートン・ライプニッツ以来の欧米の数学・物理学・生理学の再編・再構築も必要です。要するに、東洋と西洋のはざまにおいて、まず新しい現実論の学問を構築し日本語表現することが必要です。いかにたいへんなことか ...。問題の大きさに押しつぶされそうになりながらも、筆者は、少しずつ、歩み続けております。」(本文 p20 より)

TQ ☞ まず一流の学者向けの文章を多く含み、とても難解な部分もありますが、討論の様子のみは一般人にも伝えます。

TQ ☞ 1992 年 8 月に山田 学は TQ 技術の開拓者・山田俊郎としおから本格的な話を聴きました。あれから苦節 17 年間半、TQ 技術の未来を健康平和な現実論において構築するため、現時点の筆者として全力の中間報告です。

TQ ☞ 生命とは何か。物性とは何か。東洋文化と西洋文化の統合とは何か。
「気」と「エーテル」ではなく、陰性陽性と場のば区別と連関へ。
TQ 事業体の理論と実践について簡潔に集大成。

TQ ☞ 本論は東洋と西洋のはざまにある日本産業の成長戦略について考えるヒントの種くさねでもあります。